

平成29年 社協トピックス 10



1. コミュニティソーシャルワーカーの第一人者「勝部麗子」さんの講演会を開催



1月14日、日立市社会福祉協議会の「ふくしのつどい」において豊中市社会福祉協議会の「勝部麗子」さんの講演会を開催しました。勝部さんは、NHKドラマ「サイレントブア」の主人公のモデル、そして日本のコミュニティソーシャルワーカーの草分け的存在です。「ひとりぼっちをつくらない」と題した講演の中で「ことわらない福祉」「あきらめない福祉」をモットーとする豊中市社協の取り組みが紹介され、孤立しがちな高齢者や障がい者への支援方法について大きな示唆を受けることが出来ました。参加者は約420名、市内だけでなく県内各地から多くの福祉関係者が集いました。

2. あんしん安全ネットワーク強化モデル事業を開始

「一人暮らし高齢者の見守り」を強力に行う「あんしん安全ネットワーク強化モデル事業」を埴山地区、仲町地区、田尻地区の3地区で開始しました。現在、本会では、民生委員、ご近所、コミュニティ関係者の協力を得て、市内全域で約2500人を超える高齢者の見守りを行っていますが、このうち病気や体の衰えで、目を離せなくなった方々を対象に「集中的に訪問、相談、支援」をするものです。この事業は、住民の助け合いに、地域包括支援センターや保健師などの専門家も加わることで高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり（地域包括ケアシステム）を進めるものです。今後は、問題点を改善しながら全市に広めていくことを予定しています。



3. 高齢者生活支援のための組織「生活サポート連絡会議事業者部会」を発足、活動を始める

財源問題から介護保険のサービスの縮小が真近に迫っている中、身の回りのことが不自由になった高齢者への生活支援サービス（家事援助、外出支援、金銭管理など）の充実が求められています。このため、本会ではNPO、公的セクター、民間企業など、すでに生活支援を行っている団体に呼びかけて、「生活サポート連絡会議事業者部会」を発足させました。この会では、高齢者の見守り事業などで明らかになった生活上の困りごとに個別に対応するとともに、不足している生活支援サービスについて今後の実現性を検討する予定です。

4. 高齢者向けの移動サービス（試行）を始める

車が使えない高齢者の生活範囲を広げることを目的に、NPO法人「ひたち夢元気プロジェクト」と日立市社協とが連携して移動サービスを始めました。対象は、日立市社協と成沢地区社協が行っている「ふれあい健康クラブ」の参加者10数名。歩いて会場まで来るのが困難になった高齢者を無償で送り迎えするものですが、坂道の多い地区だけに、放置すればクラブに来られなくなることが懸念されていました。高齢者の足の問題はこれから急速に増えていきます。このサービスの試行を通じて日立市社協としての解決策を検討して行く予定です。



5. 市内3か所でこども食堂を運営

昨年11月開設の「十王こども食堂」に続き、4月には市南部の公共施設でも「みんなのいばしょ・みなみ風」が、9月には市中心部で「おかえり・ごはん食堂」がオープンしました。運営しているのは、前者が、NPO法人「ふれあい坂下」。永年、この地域で子育て支援や配食サービスなど高齢者の生活支援を行っている団体です。後者はレストラン経営者を中心とした実行委員会が行っています。貧困、ひとり親、ひきこもり、いじめなど、子どもを取りまく環境が大きな社会問題となっており、未来を託す子どもたちを社会全体で支える試みです。本会は以上3団体に対し経費面での助成とコミュニティ、民生委員などとの調整を行っています。

6. 福祉功労者顕彰と小中学生の福祉作文コンクールを実施

11月14日、本会の「ふくしのつどい」において、永年福祉施設や地域活動に功績のあった64名の個人、団体の表彰と小中学生を対象とした福祉作文コンクールの優秀者の表彰式を実施しました。福祉作文コンクールでは応募者44名の中から優秀作品に選ばれた小学生、中学生9名が表彰され、(久慈中)が朗読発表を行いました。9名の作文は、障がい者、高齢者へ思いやりや地域での福祉活動体験を綴ったものが多く、子どもたちの福祉へのまなざしの真剣さが伝わってきました。



7. 日立市社協の新たなシンボルマークを制定



日立市社協の理念とイメージを表すシンボルマークを制定しました。福祉の職場らしい温もりとつながり、若葉のような明るさと生命感を表現しています。(日立市の日と手をつなぐ人々をデザインしました。)

8. ふれあい菜園を開設

福祉プラザの敷地内に、「みんなが、ふれあえる菜園」を作りました。菜園に植えたのは、ナス、トマト、パプリカ、バジルなど6種類の野菜やハーブ。この菜園は、社協が行っている子育て支援事業「おもちゃライブラリー」、障がい者のいきがづくり事業「ゆうあい」の利用者や、応援している、ひきこもり者支援の場「ひたちやかい」の参加者の交流の場となることを目指しています。



9. ふくしチャレンジスクール(ひたち福祉探検少年団)に小中学生11名が参加



小中学生の福祉教育の一環として、ふくしチャレンジスクール(ひたち福祉探検少年団)を実施しました。この事業は、講義に加え、車いす体験や高齢者疑似体験などを通じて福祉活動やボランティア活動を理解することを目的としています。今年の講義は「聴覚障がい者とともに学ぶ手話・体験」。手話の基本を学んだ後、聴覚障がい者と手話通訳者と一緒にロールプレイングゲームを行い、手話の効果と大切さを学びました。

10. 社協会員募集活動、共同募金活動(赤い羽根、歳末助け合い)を実施

社会福祉協議会活動の財源となる社協会員、会費の募集と、生活の苦しい方々への援助やボランティア団体等への支援を目的とした共同募金活動(赤い羽根、歳末助け合い)を例年のとおり実施しました。学区コミュニティの方々のご協力を得ながらの活動ですが、会費や募金活動の基盤となる町内会、自治会への加入者減少などで、年々、会費額、募金額は減り続けています。



h 社会福祉法人 日立市社会福祉協議会
日立市会瀬町 4-9-13 〒317-0076
TEL 0294 (37) 1122 Fax 0294 (37) 1124
HP <http://hitachi-shakyo.sakura.ne.jp>
FB <https://www.facebook.com/日立市社会福祉協議会>